**FH-FG2 SET****ソフトフロアホッケー競技セット**

¥50,600 (税抜価格 ¥46,000)

スティック12、パック1、ポップ・アップ・ゴールセット1(1対)、公認ルール付
 梱包サイズ:105×31×16cm 重量:約3.5kg
 梱包サイズ:108×84×4cm 重量:約3kg(1セット2梱包)

※表示価格は2023年1月21日現在のメーカー希望小売価格です。
 価格及び仕様変更になる場合がありますので予めご了承下さい。

>> これからのニュースポーツ

ニュースポーツは「だれもが、いくつからでも、いつまでも」できるスポーツです。適度な運動は身体的な効果だけでなく精神面にもよい影響を及ぼします。

最近の子どもたちは外で遊ぶことが少なくなり、成長時期に体や心を鍛える機会が失われています。そんな子どもたちにはチームスポーツを勧めます。友だちと協力する大切さを学び、互いに助け合い、励まし合いながら人間的に成長していくことができるからです。ソフトフロアホッケーはチームのプレーヤー全員が均等にプレーでき、反則に対しては厳しくチェックされるのでチームメイト全員が勝敗に関わることができ、喜びも悔しさも全員で分かち合うことができるようになると思っています。

ニュースポーツは「競うことよりも楽しむことを主として」います。もちろん、スポーツですから勝ち負けがあり、技術を磨く必要もありますが、それ以上に楽しく運動ができて心身ともに健康になり、仲間づくりや世代間交流もできるニュースポーツは、今後あらゆる世代の方たちから支持をうける存在になると確信しています。



前山 直先生 TADASHI MAEYAMA

1955年、滋賀県生まれ。1978年、日本体育大学体育学部体育学科卒業。藍野学院短期大学助教授を経て、現在 数々の大学でスポーツ指導を行うとともに、NPO法人フレンドリー情報センター 常務理事兼主任研究員として生涯スポーツの研究、指導を行う。日本キンボールスポーツ連盟、日本ワナゲ協会、日本スカイクロス協会の役員も務める。2011年4月梅花女子大学の特任教授に就任。

ご使用上のお願い

- 本製品をソフトフロアホッケー競技以外に使用しないでください。
- スティックの先端の緩衝材は柔らかい材質ですので、踏んだり角のあるものに打ち付けたりするのは避けてください。破損することがあります。
- パックを引っ張ったり、刃物など鋭利な物でキズを付けたりしないでください。

ニュースポーツ **Newsport**
 生涯・健康スポーツ用品
 ニュースポーツの専門店 ONLINE SHOP



ウェブサイトはこちら

★ 用品・用具のお買い求めはお近くのスポーツ店、もしくは左記フレンドリー情報センターのオンラインショップにてどうぞ。

**ルールや講習のお問い合わせ**

特定非営利活動法人 フレンドリー情報センター
 【本社】〒537-0012 大阪市東成区大今里 3-12-23
<http://www.newsports-21.com>
 e-mail: friendly@newsports-21.com
 TEL・06-6971-9190 FAX・06-6981-7470

ウェブサイトはこちら

**SUNLUCKY NEWSPORT FOR EVERYONE**

ニュースポーツメーカー 株式会社 サンラッキー

【お客様窓口】 ☎ 0120-81-4670 (平日9:30~17:00 / 土・日・祝日 休み)

<http://www.sunlucky.jp>

E-mail: info@sunlucky.jp FAX: 06-6981-6740

ウェブサイトはこちら



CHALLENGE NEWSPORTS

ソフトフロアホッケー

日本フロアホッケー連盟公認

【限られた時間でソフトフロアホッケーを楽しむための講習事例】

SOFT FLOOR HOCKEY

写真提供:日本フロアホッケー連盟

フロアホッケーはもともとカナダで知的障がい者のスポーツとして開発されたアイスホッケーに似たスポーツで、現在では、誰もが楽しめるユニバーサルスポーツとして親しまれています。体育館でスティックを使い、大きなドーナツ型の柔らかいパックをゴールに入れて、得点を競います。

ソフトフロアホッケーは、競技の面白さを損なわず、安全・軽量・簡便性を理念に、より多くの人に楽しんでもらえるよう開発しました。ルールはフロアホッケーと同じですが、参加者の体力等に応じて、指導者の判断と責任において、独自のルールを考案して楽しむこともできます。

ここでは限られた時間の講習で子どもたちにソフトフロアホッケーの面白さを伝える方法を考案した前山直先生のインタビュー記事を掲載します。

Interview with a NEWSPORTS Leader**子どもたちに身体を動かす楽しさ、チームでプレーする喜びを知ってほしい**

ニュースポーツを指導する場合、時間に制限がある場合が多く、一通りのルールを教えるだけの講習になってしまう場合があります。

今回、さまざまなニュースポーツの指導に携わり、長年大学でスポーツの指導をされている前山直先生を迎え、限られた時間で子どもたちにソフトフロアホッケーの楽しさを伝える講習方法をインタビューしました。



写真提供:日本フロアホッケー連盟

>> ニュースポーツの魅力

ニュースポーツは入口が広く、奥深い競技が多い。能力や体力、年齢に関係なく、すぐにプレーを楽しむことができ、続けるうちに技術や戦略が必要になり上達する喜びも味わえる。生涯に亘り楽しむことができるのが魅力です。

長年大学でスポーツの指導をしてきましたが、スポーツの楽しさを知らない学生が年々増えています。スポーツ嫌いの学生も多く、ニュースポーツに出会って初めてスポーツの楽しさに目覚め、のめり込んでいく者もいます。その楽しさを伝えたいと、自らボランティアで子どもたちなどに指導をするようになった卒業生を見ると、改めてニュースポーツの力を感ずります。

>> ソフトフロアホッケーの魅力

誰でも楽しめるスポーツがニュースポーツですが、数あるホッケー形式のスポーツの中でソフトフロアホッケーはユニバーサルスポーツ※1という性格上、反則が厳格にチェックされ、みんなが平等にプレーできる点がいいですね。ドーナツ型のパックは扱いやすく、子どもたちもすぐにゲームに親しめます。また、チームのプレーヤー全員に出場の機会が均等に与えられ、補欠がないということが長所です。

子どもがチームスポーツを行う場合、そのスポーツが得意な子どもばかりが集中してプレーをすることが多く、不得手な子どもが置きりにされる場合が多々あります。チームスポーツのはずが、少数のプレーヤーの活躍で勝利してもチームメイト全員で力を合わせた結果の勝利だとは感じられません。ソフトフロアホッケーの場合、全員がプレーに携わることができるので、みんなの力を結集し、戦ったという充実感が得られますし、他者と協力することの大切さが身につきます。

※1 ユニバーサルスポーツとは障がいの有無に関係なく、だれもが、無理なく参加できるスポーツのこと。

>> 限られた時間でのソフトフロアホッケーの講習ポイント

1 第一にソフトフロアホッケーの楽しさを伝え、またやってみてもらうこと

最初は概要を説明し、とにかく体験してもらおう。但し、怪我に繋がるような危険な反則プレーや行為については最初に説明します。

2 コートづくりは簡単に

バウンダリーボードを用意するのは困難なため、コートを作ります。その場合、コートの4隅にコーナーコーンを置き、センターサークルは、バスケットボールのセンターサークルを使います。センタースポット、ペナルティーポイント、ゴールクリース、ゴールラインはラインテープで明確にします。パックがコートの外に出た場合は相手チームがパックの出た位置からのショットでゲーム再開とします。また、反則があった場合は、反則を犯したチームの相手チームが反則があった場所からフリーショットでゲームを再開します。選手またはスティックがゴールクリースに入った場合(反則)は、ペナルティーポイントからフリーショットを行います。

※下線部分は、フロアホッケーの正規ルールではなく、前山直先生が独自に考案されたルールです。

3 基本操作の練習

フロアホッケーのルールでは、各プレーヤーに役割がありますが、限られた時間内での講習では全員にこのスポーツの楽しさを知ってもらうことを第一義とするために、基本のスティック操作を教えてから実際にパックを運んだり、味方にパスしたり、ゴールする爽快感を味わってもらいます。

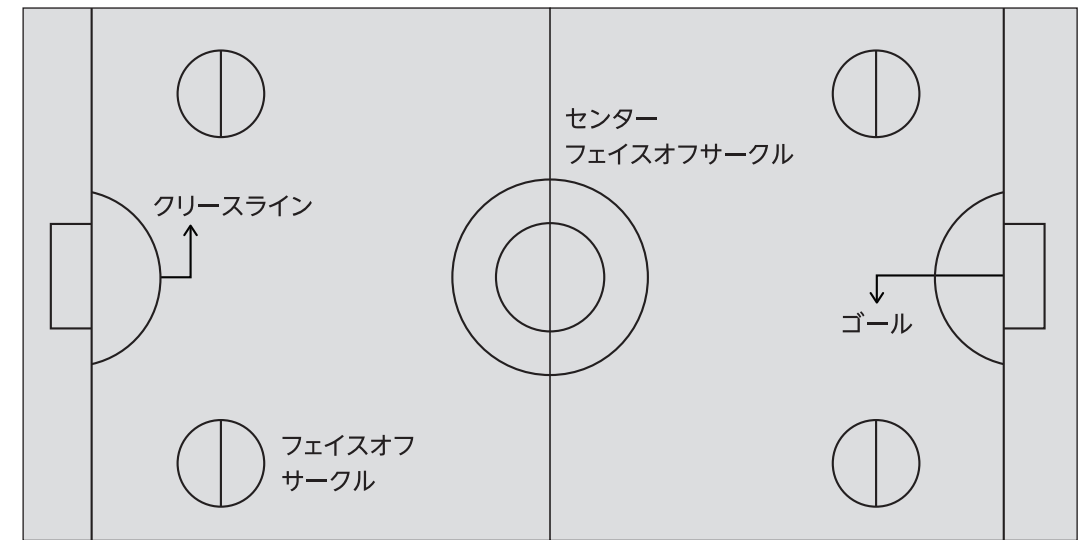
4 反則とマナーを指導

基本操作ができれば、主な反則を教えます。特に敵味方関係なく暴言を吐かない、暴力行為は一切行わないことは強調して伝えます。子どもの場合、プレーに熱中するあまりの反則が多々見られます。プレー中そのような行為があったら、その都度ゲームを止め、反則に関する指導やマナーの大切さを説明します。

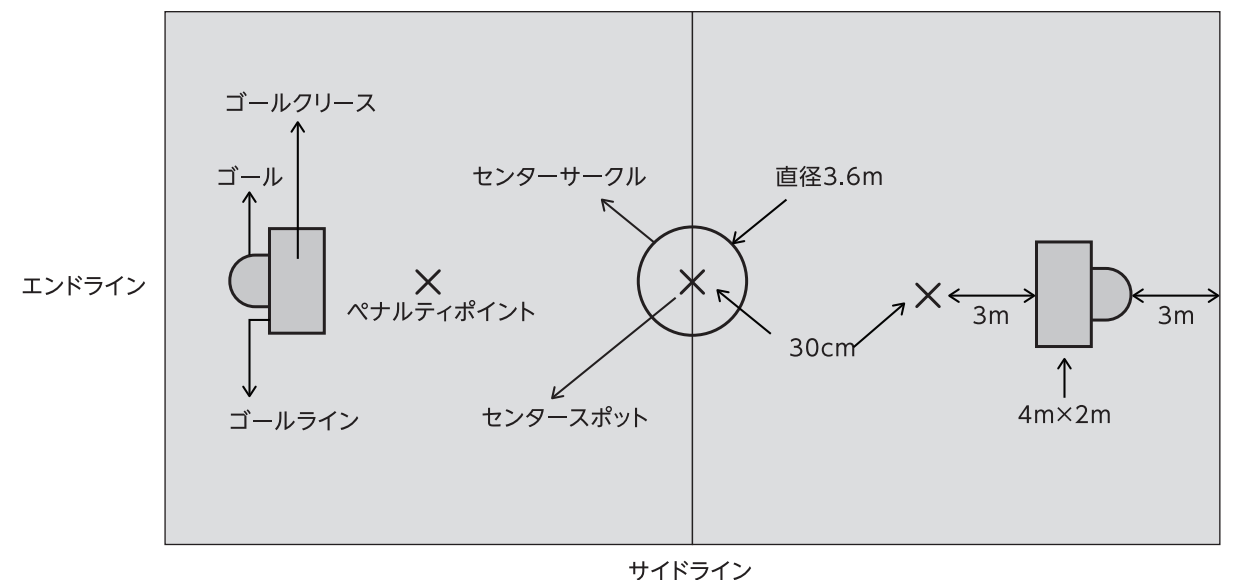
5 全員が参加し、楽しめるように工夫する

次にゲームに移ります。ゲーム中、パックに触れる機会の少ないプレーヤーがいれば、例えばゴールするまでに最低3人がパックに触れなければならない、必ずパスをつないでいかななければならないというルールをつくり、全員がプレーに参加できるようにすることもできます。また、他人のプレーを見たり、応援したりすることも子どもたちにとっては貴重な時間です。他人のプレーを見て自分に足りないものを感じたり、チームワークの大切さに気づきます。また、勝者を称えるだけでなく、敗者をいたわるマナーを身につけさせます。単に技術を指導するのではなく、スポーツを通して人間性を高めることを念頭に置いて講習を行っています。

[フロアホッケーの公式ルールに基づくコート図]



[前山直先生が提案するコート図]



ゴールクリース：半円を描くのが難しい場合は4m×2mの長方形で代用します。

ペナルティーポイント：選手またはスティックがゴールクリースに入った場合のみここからフリーショットを行います。